

神奈川県立非文字資料研究センター 2009年度第2回公開研究会

東亜地区租界生活之新議 ー仁川研究会ー

～東アジア地区租界生活空間に関する仁川シンポジウム

開催趣旨

中国、日本、朝鮮などの東アジア諸国に設置されていた租界・居留地・租借地等に関連する研究は近年の歴史研究分野において最も活発な研究成果が報告されている分野の一つである。この租界等に関連する研究を行っている神奈川県立非文字資料研究センターの研究グループは、神奈川県立21世紀COEプログラム「人類文化研究のための非文字資料の体系化」（2003年～2007年度）第3班「環境と景観の資料化と体系化」の研究成果を継承するために設置された組織である。初年度は、「租界研究の新たな可能性を求めて」をテーマとして、2009年3月上海文廟会議室でシンポジウムを開催した。

第2回目となる今回の仁川シンポジウムは、本センターと韓国・漢陽大学校東亜建築歴史研究室が主催して行うもので、今まで租界研究に関わってきた中国、韓国、日本の研究者が集って、租界の生活空間に着目した最近の研究状況を報告し、今後、租界に関連する新たな共同研究の可能性を進展させる機会としたい。

日 時：2009年10月24日（土）10：00～17：00

会 場：大韓民国 仁川広域市 仁川ハーバー・パークホテル

報 告：

- ◇貴志俊彦（神奈川県立経営学部・教授）「『満州国』発行の絵はがきと東アジア絵はがきデータベース」
- ◇呂煥鎮（(株) Tribico 代表理事）「国際保養地となった元山租界の現況」
- ◇陳祖恩（中国東華大学・教授）「明治時代の上海日本人居留民の文明覚醒運動」
- ◇李熙煥（韓国仁荷大学・教授）「仁川済物浦日本租界の文化・生活の諸相」
- ◇青木信夫（天津大学建築学院 教授）「開発と保存のダイナミクスー中国北方経済センター・天津における文化遺産の現在一」
- ◇孫安石（神奈川県立外国語学研究所・教授）「朝鮮の清国租界に関連する資料紹介」

コメンテーター：李百浩（武漢理工大学・教授）、富井正憲（漢陽大学校建築大学・教授）

司 会：韓東洙（漢陽大学校建築大学・教授）、大里浩秋（神奈川県立外国語学部・教授）

（問合せ先）〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

神奈川県立日本常民文化研究所 非文字資料研究センター事務室

Tel. 045-481-5661（内線 3532） Fax. 045-491-0659

主 催：神奈川県立日本常民文化研究所 非文字資料研究センター
漢陽大学校東亜建築歴史研究室